



28 和気清麿奏神教図 佐久間文吾

明治二十三年(一八九〇) 油彩・カンヴァス
一三五・八×一〇四・八

明治二十三年に開催された第三回内国勸業博覧会に、「清水観音堂」とともに出品され、三等妙技賞を受賞した作品。奈良時代末の忠臣・和気清麿が称徳天皇に対し、法王道鏡を皇位に就かせてはならないという宇佐八幡宮の神託を奏上する、緊迫した場面を描く。後方からの光を受けて、みごとな陰影をほどこした清麿の表情や、光沢のある装束や床板の質感を的確に表した描写など、不遇の時代であった明治中期の洋画が到達した高い完成度を示す大作として、これまでもよく紹介されてきた作品である。明治美術会に所属していた佐久間の本図は、『明治美術会第七回報告』に縮図としても掲載されている。同博覧会における洋画の最高位の受賞は、二等妙技賞を受賞した塚原律子の「清少納言詣初瀬寺図」であったから、当時としてもかなり高い評価を受けたといえよう。画面右下に「明治二十三年(〇に文吾の描印)B. SAKUMA./佐久間文吾」の制作年、サインの記載がある。

佐久間文吾(一八六八〜一九四〇)は、本多錦吉郎の主宰する画塾彰技堂に学んだ明治美術会の画家として知られる。同展の出品作の他は雑誌の挿図などが知られるが、現存する作品はあまり紹介されておらず、本図が代表作である。本図が発表された年の第二回明治美術会展では、照憲皇太后、皇太子、英照皇太后の行啓に際して、油絵の席画を行った。旧派の代表格である明治美術会出身者でありながら、新派の総本山となる白馬会にも創立会員として参加したが、同会の展覧会へ出品することはなかった。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections